

2022. 11. 6 (日) 使徒5 : 27~32

5:27 彼らが使徒たちを連れて来て最高法院の中に立たせると、大祭司は使徒たちを尋問した。

5:28 「あの名によって教えるはならないと厳しく命じておいたではないか。それなのに、何ということだ。おまえたちはエルサレム中に自分たちの教えを広めてしまった。そして、あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしている。」

5:29 しかし、ペテロと使徒たちは答えた。「人に従うより、神に従うべきです。」

5:30 私たちの父祖の神は、あなたがたが木にかけて殺したイエスを、よみがえらせました。

5:31 神は、イスラエルを悔い改めさせ、罪の赦しを与えるために、このイエスを導き手、また救い主として、ご自分の右に上げられました。

5:32 私たちはこれらのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊も証人です。」

<説教>

ユダヤ人の宗教的・政治的権力である最高法院（サンヘドリン）による初代教会の使徒たちに対する二回目の迫害が起きました。大祭司とその仲間たちすなわちサドカイ派の人々は使徒たちを逮捕して留置場に入れました。しかしその夜、主の使いが使徒たちを牢屋から連れ出し、「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちのことばをすべて語りなさい。」と命じました。その命令に従って使徒たちは夜明けごろには神殿に入って教え始めました。そうとも知らずに大祭司とその仲間たちは使徒たちを裁こうと最高法院を召集しましたが、使徒たちは牢屋にはおらず、神殿の中で人々を教えていました。使徒たちは再び捕らえられ、ようやく最高法院の議会（使徒たちの裁判）が開かれることとなりました(27)。

「あの名によって教えるはならないと厳しく命じておいたではないか。それなのに、何ということだ。おまえたちはエルサレム中に自分たちの教えを広めてしまった。そして、あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしている。」と大祭司は使徒たちを問い詰めました(28)。一回目の迫害のときにサンヘドリンは、使徒たちの教えがこれ以上民の間に広がらないように、今後イエスの名によって民に語ることも教えることもいっさいしてはならないとペテロとヨハネに命じました(4:17,18)。今回使徒たちがその大祭司の命令に背いたと断罪したのです。続けて大祭司は、「あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしている。」と言いました。これはペテロが人々に対して「イスラエルの全家は、…イエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」(2:36)とか、「あなたがたはこの方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その前でこの方を拒みました。」(3:13)とか、「あなたがたが、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをした」(3:17)とか言っていたこと、また一回目の迫害のとき「民の指導者たち、…あなたがたが十字架につけ、…」(4:8-10)と最高法院の場で言ったことなどを踏まえてのことでしょう。そしてペテロが言ったのと同じことを他の使徒たちも語っていたからでしょう。このように大祭司は使徒たちが大祭司たちにイエスを殺した責任があると断罪し、そうやって大祭司たちの名誉を傷つけたと使徒たちを断罪したのです。

その尋問に対してペテロと使徒たちが答えました(29-32)。まず「人に従うより、神に従うべきです。」と言いました(29)。内容的には「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」(4:19,20)と同じです。しかし、今度の方が更にはっきりと断言しています。そして今回の「従う」という言葉はまさに「権力者の言うことを聞く、それに従う」という意味が明確な言葉だということです。なるほど大祭司たちにもそれなりの権力があることを使徒たちも認めていました。だから以前も今回も抵抗することなく捕らえられ、牢に入れられることさえも甘んじて受けました。しかし、イエスの名によって語り教えること、いのちのことばを語ることを人である権力者から禁じられてもその命令は即座に断固拒否しました。何故ならイエスの名による宣教、いのちのことばの宣教の命令は人から受けたのではなく、主なる神から受け、「天においても地においても、すべての権威が与えられている」主イエスから受けたからです。

イエスの血の責任についてはどうでしょうか。大祭司たち、権力あり、民の指導者たる者の責任はもちろんあります。「あなたがたが木にかけて殺した」とペテロは言います。「木」とはここでは十字架のことですが、もともと「木にかけ」られた者は旧約聖書では神にのろわれた者でした(cf.申命記 21:23)。大祭司たちは神の御子イエスを「神を冒涇する者」、「神にのろわれた者」として殺したのですから当然その責任があります。しかし神は大祭司たち、イスラエルの権力者、指導者たちが「神にのろわれた者」として殺したイエスを「よみがえらせました」。それだけでなく神は「このイエスを導き手、また救い主として、ご自分の右に上げられ」、のろいどころではなく、他のだれも持つことが許されない最高の権威と祝福をイエスにお与えになったのです。ペテロはそう言ってイエスを拒み神に逆らった大祭司たちの責任、罪ををはっきりと指摘しました。しかし同時に神がイエスをよみがえらせ、ご自分の右に上げられたのは「イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるため」(直訳)だと言いました。大祭司たちがイエスの血の責任は自分たちにあると認めて、イエスを自分たちの「導き手、救い主」と信じて「悔い改め」(神に立ち返り)、「罪の赦し」を神からいただくように神は願っておられるのだとペテロは大祭司たちに語って証言しました。

こうしてペテロと使徒たちはイエスの証人、イエスの復活の証人として、大胆に人である権力者たちを恐れず証言しました。それはイエスのお約束のとおり聖霊の力によることでした。「人に従うより、神に従うべきです。」と信じて神に従う者たちに神がお与えになる聖霊が、人の前で、また目には見えなくても神の御前で、イエスを証しする言葉を与えてくださいます。大祭司たちが以前にペテロとヨハネの大胆さを見、二人が無学な普通の人であるのを知って驚きましたが(4:13)、そんな使徒たちが大祭司たちを恐れず、神だけを怖れて、大祭司たちの不当な命令には従わずに大胆に神の命令に従い、イエスを証したことはただ聖霊の力によることでした。使徒たちは聖霊の力によって聖書の教えやイエスのみことばを思い起こすことで、イエスの本当の証人は聖霊であるということがますます確かになってきたのです。聖霊の力によって「人に従うより、神に従うべきです。」これが最初から一貫した神の民、キリストの教会の正しい姿勢であり告白です。私たちもみことばと聖霊の力によって、今のこの罪の世にあって同じ姿勢と信仰の告白に生きて行きたいと心から祈ります。